

## ねぎ



### 経営規模

○ねぎ …… 60 a  
 ○水 稲 …… 2.3 ha  
 ○キャベツ・白菜・ナス等を栽培



今野

まさかつ  
正勝さん(75)

れいこ  
鈴子さん(72)

(能代市浅内字成合)

### こだわりの土づくりで

### 高品質ねぎを生み出す

平成22年から24年まで、種苗交換会の農産物展示ねぎ部門において、秋田県知事賞・1等賞を3年連続受賞した今野正勝さん・鈴子さんご夫婦は、今回の種苗交換会でその功績を称えられ、顕彰者として表彰されました。また今年2月に当JAで開催された生産者大会において、『白神ねぎの達人』にも選ばれています。

専業農家になると同時に始めたねぎ栽培は、今年で10年目を迎える

ます。現在、ねぎ60a、水稲2.3haのほか、白菜・キャベツ・ナスなども手掛けています。18歳から兼業農家として農業に携わり、これまで畜産や果樹など様々なものに取り組んできました。地元農家やJAの勧めもあって始めたねぎ栽培ですが、最初のうちは栽培がうまくいかず、栽培方法や流れが理解できるようになるまで3年を要しました。

「栽培で一番こだわっているのは、土づくりです。形や味、病害虫への耐性の根本は、土壌の豊かさにあると考えています。そのため、有機質堆肥や畜産堆肥などの自然堆肥を使用しますが、完全堆肥化する手前で施肥することで、それらを好む土壌中のバクテリア等微生物の働きを促しています。また地力を高めるため、圃場を1年休ませてから苗を定植することもあります。」と話す今野さん。作業では重機を使ったり、バクテリアの状態を調べるため顕微鏡も活用します。専業農家になるまで県内外へ出稼ぎに歩き、様々な技術や知識などを学んだ経験が、今の栽培に生かされています。また農業関連の記事や本を読んで、新しい栽培方法を圃場の一部に使って試験的に行うなど、技術向上に余念がありません。



▲ねぎ収穫作業に精を出す今野さん

「病害虫防除の薬剤を散布する際も、食品用の粘着剤を混ぜたり、砂糖を発酵させてアミノ酸にしたものを同時散布するなどして、防除効果を高めるとともに、生育促進につながる工夫をしています。」最後に、顕彰を受けた感想と今後の目標について伺うと、「とても名誉で嬉しいですし、品質への意識がより高くなりました。また地域内での競争意識が高まり、仲間同士で切磋琢磨して、より良いねぎを作っていきたいと思っています。これまで妻には苦勞をかけたので、この賞は夫婦でとったものだと思います。」

▶3年連続1等賞を獲得した白神ねぎ

